

Rich ~ピチヤリ~

七飯町歴史館だより
第9号

ななえ古写真物語

VOL. 9

宇喜多農場

～大沼の開拓～

明治終わり～大正初め頃

大沼駅前付近

宇喜多農場事務所



この写真は、明治終わり頃から大正初めころに撮影されたと考えられるもので、当時、大沼地区を開拓し、農場経営をしていた宇喜多農場の事務所が中央に写っており、その後ろには吉野山が聳えている・・・そんな風景です。建物はもちろんのこと、人々の服装からも時代の古さを感じ取ることが出来ます。

宇喜多農場は、明治30年に香川県一宮村から宇喜多秀夫を筆頭に、長尾家・渡辺家など5戸22名を引き連れて移住。当時、大湿地地帯だった吉野山の麓あたりを開墾したもので、農耕を可能にするために水路をめぐるせ、排水に努めることから始めたといえますから、その労力たるや、想像を絶するものだったと思われます。宇喜多秀夫は、農業への適性はともかく、その美しい眺めに惹かれて、幾つかあった候補地から、この大沼という場所を選んだといえます。

農場が最も盛んだった頃には、香川県のほか、秋田・岩手・石川・新潟・愛知・兵庫・九州から小作人や場内の商家として移住していたといわれ、この時の主な作物は、馬鈴薯・燕麥・大豆・小豆などで、馬鈴薯から澱粉も製造していました。

宇喜多農場が開設されてから、6年後となる明治36年に函樽鉄道が敷設されます。もともと、この路線は現在の大沼公園駅を通るルートでなかったものを宇喜多秀夫らの尽力によって、現在のルートへ変更されたといえます。

この鉄道敷設によって、停車場（現在の大沼駅）が設けられると、戸数も増加し、大沼界隈も賑わいを見せるようになります。これにより、将来をささえる児童への教育を充実させたいという村内の声が高まってきました。そこで、宇喜多秀夫、永井恒孝、山口八重次郎、大関亀太郎、国定佐惣治、間宮光文、一戸伴司、庭田寅吉の8人が発起者となり、明治37年3月15日に大沼学校設立主意書を提出、同年6月25日に大沼学校（現在の大沼小学校）が設立されました。当初かかる経費は、宇喜多秀夫ほか約40名によって拠出されていたといえますから、当時の人々の熱い想いが伝わってきます。

宇喜多秀夫らによる開拓は、大湿地だった場所を農地へと変貌させただけでなく、学校の設立という教育の開拓にまで及んでいたということを記憶に留めてほしい・・・。そんな1枚の紹介でした。

6日 「夜の博物館」が開かれました。この日は、縄文時代に作られていた勾玉づくりに挑戦です。はじめに、学芸員から勾玉についての説明を受け、その後、紙やすりや錐などをつかって、滑石という材料を整形して磨きあげます。途中、石が割れてしまったりというアクシデントもありましたが、受講者の皆さん上手に作り上げました。夜遅くまでの作業お疲れ様でした。



勾玉づくりを熱心に聞く参加者



この写真は！
いったいどこ？



ばんご飯
おいしー！

15日 「大沼をきわめる！」と題して、ジュニア探検クラブで、キャンプを開催しました。初日は、大沼の古写真をみながら、現在の公園内を見比べて歩いたり、霊泉洞・大岩というあまり知られていない場所を探検したりし、夜には、東大沼でコウモリの観察をしたり、国際交流プラザで星座のお話を聞いたりと・・・参加した児童もさすがに疲れたかな？

16日 キャンプ2日目は、森林公園内で危険な動植物を学んだり、カブトムシを捕まえたりと、普段では得れない経験をした後、軍川の石黒牧場で乳搾りを体験させていただきました。昼には、プリンスホテルでゲームをしながら環境について学ぶなど、あっという間のキャンプでしたが、逆に児童から元気をもらった2日間になりました。

カブトムシを捕まえた！



牛でけえ！



町内にある狛犬の調査をしました

11~22日 今年度、久しぶりに博物館実習生を1名受け入れることになりました。博物館の運営から、事業の準備、資料の取扱いなど学ぶことは色々ありましたが、この経験を少しでも活かして、将来の博物館を背負っていく立派な学芸員になることを願っています。

10月の予定

1	水	蒸気自動車を特別展示します。
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	特別展記念講演会
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	ふぁみりーでいみゅーじあむ
12	日	
13	月	体育の日
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	特別展CLOSE
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

10月の休館日はありません。

男爵薯百年史始まる

七飯町で栽培が始まった男爵薯が百歳を迎えることを記念する展示が開催されています。皆さん、是非ご来館下さい。(S)



編集後記 ~tawagoto~

先日、明治期に活躍した開拓使長官 黒田清隆の末裔の方が来館し、開拓使の試験農場である七重官園の解説などをさせて頂きました。後日、その方から篆刻によるとても素晴らしい私の落款印が贈られてきました。そして、この時から、落款に恥じない達筆さと、人物にならなくては・・・という新たな課題が与えられました。というわけで、日々精進な毎日です。この場を借りて、贈呈くださった方には御礼申し上げる次第です。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~ 第9号

平成20年9月22日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町568-6

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp